

### ③ 青森のりんご園

#### ④ 青森りんごの先駆者 きくちたてえ 菊池楯衛

- ⑤ 青森の名産品と言えば、りんごを連想する人は少なくないと思う。だが、どうして青森はりんごの名産地なのかを考えた人は、意外と少ないのではないだろうか。

青森りんごのルーツをたどると、発端は1846年に遡る。津軽藩の武家に生まれた菊池楯衛は県庁につとめ、国から来た文書を読み「西洋のりんごは貯蔵すれば1年あまりもつ」という記述を読んだ。楯衛は単身北海道へ渡り、アメリカの農業技師からりんご栽培を学びりんごの接ぎ木や苗木の仕立て方について研究した。



- ⑧ 岩木山の影響で水持ちが悪く稲作にはあまり適さない土地だったが、果樹園に適する水はけのよい土地であり、火山灰土壌の影響でミネラル豊富なりんごに育っていく。

#### ⑨ りんごを育てるプロセス

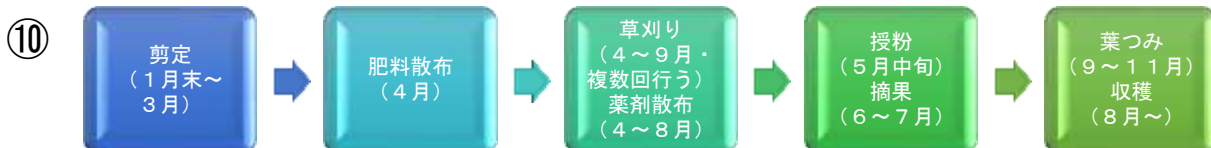


図 1 プロセス

- ⑪ 楯衛は非常に農業への愛情が深く、今の青森りんごが成り立っているのは彼なくしてはならなかっただろう。全国的に有名な弘前城の桜も、楯衛が300本の苗を取り寄せ公園に植えたものと言われている。

⑬



⑫

# りんご園とふくろう

⑲

⑭

⑲

## りんご農家の救世主 ふくろう

⑮

青森県のりんご園には、数えきれないほどのりんごの木が立ち並ぶ。だがその木を狙って、りんご農家の天敵「ハタネズミ」が姿を現す。

ハタネズミは本州、九州、佐渡島、能登島に分布する日本固有種のネズミで、イネ科・キク科を中心に草を食べる。イネやサツマイモ、ニンジン、そして果樹に大きな被害をもたらすため、害獣として扱われる。青森のりんご園もその例に漏れず、せっかく育ったりんごの木は皮をちぎられ、かじられた木はみるみる弱ってしまうのだ。

⑲

被害に頭を抱えた農家たちを救ったのは、ほかならぬ「ふくろう」だった。

⑯



⑰

⑲

## ネズミハンター ふくろう

⑲

⑱

ふくろうは猛禽類であり、れっきとした肉食である。彼らの主食はネズミやウズラなどの小動物であり、ふくろうをペットとして飼う人々は餌として冷凍マウスやウズラを与えている。

⑲



⑲

青森には昔から野生のふくろうが分布しており、古くなったりんごの木の洞に巣を作って子供を育てていた。しかし近年の品種改良によってりんごの木が低木化し、徐々に姿を現さなくなっていった。

りんご農家たちは園内に巣箱を新しく設置し、ふくろうをふたたび招くことを試みた。結果、巣箱の中でふくろうのヒナが誕生し、ネズミの被害は激減した。

⑲



⑳



㉑

<<< ちょっと自慢できるお役立ちコラム りんごの品種について >>>

㉒

ふじ	王林	トキ	紅玉
袋をかけないものをサンふじという	名前の由来は「りんごの中の王様」	ふじと王林を両親にもつ新品種	アメリカ原産 特に製菓に向いている

②③

# りんごとふくろうと青森

## ②④ 青森市の象徴

青森と言えば、りんごで知られているだろう。そして、りんごのためにたくさんの人々の努力と歴史が積み重なっていることを知っている人も少なくない。だが、その人々と共存し助けてくれた大切なふくろうたちを知る

人は、いまだ少ないのではないだろうか。

青森県の県庁所在地である青森市、そのシンボルとなる「市の鳥」は、長らく②⑤善知鳥<sup>1</sup>が知られていた。しかし、2005年に善知鳥と交代する形で、新しく②⑥ふくろうに決まったのだ。浪岡地区のりんご園を中心に生息しており、世界諸国でも幸せを呼ぶラッキーバードとして親しまれるふくろうは、市民にとって実に近い鳥であると言える。



青森県のりんご園で時期によってはふくろうの雛を見ることが出来るという。実際にその時期になると②⑦ローカルニュースの話題と映像はふくろうの子どもたちで持ち切りだ。りんご農家たちはふくろうを大切にし、これからは青森のりんご園には、フワフワでかわいいハンターである彼らの姿が見られるだろう。



②⑦



②⑦



②⑧

青森の皆さんも  
他県の皆さんも  
僕たちふくろうと  
青森りんごを  
宜しくお願いします！

②⑦



<sup>1</sup> チドリ目・ウミスズメ科に分類される海鳥の一種